

(2) 自立活動実践事例集

自立活動実践事例集

茨城県教育研修センター特別支援教育課

「すんなり自立活動」を基に実践した各教科等を下支えするための自立活動の実践及び手立てについてまとめたものです。

実践事例

＜すんなり自立活動＞

STEP 1 実態把握

STEP 2 課題の明確化

STEP 3 長期目標設定

STEP 4 指導内容設定

STEP 5 自立活動短期目標設定

STEP 6 自立活動指導の手立て選定

STEP 7 指導の実践

STEP 8 形成的総括的評価

実態把握から評価に至るまでのプロセスと学習指導案を掲載しています。

＜すんなり自立活動＞

STEP 1 実態把握

STEP 2 課題の明確化

STEP 3 長期目標設定

STEP 4 指導内容設定

STEP 5 自立活動短期目標設定

STEP 6 自立活動指導の手立て選定

STEP 7 指導の実践

STEP 8 形成的総括的評価

実態把握から評価に至るまでのプロセスと学習指導案を掲載しています。

＜困難さの背景に応じた自立活動の指導の手立て＞

＜困難さ＞		聞くことの困難さ		
困難さの内容	背景要因推定の手がかり	推定される背景要因	自立活動の指導内容 自立活動の手立て	文献・教材等
指示と違うことをしている	・耳からきいたことが頭に残らない ・言葉の指示で動けない	聴覚認知力が弱い	＜指導内容＞ ・聴覚能力を高める【身(5)】 ＜手立て＞ ・命令ゲーム・3ヒントゲーム	子どもの集中力を育てる聞くとレ(学研)
	・記憶することが苦手	ワーキングメモリーが弱い	＜指導内容＞ ・聴覚能力を高める【身(5)】 ＜手立て＞ ・命令ゲーム・3ヒントゲーム	聞き取りワークシート(NPOフトゥーロ)

行動面,学習面の困難さに応じています。

自立活動の指導に関するキャラクター「じりっぎー」です！宜しく願います

○人として生きるための、心身の調和的発達のための基盤をつくるのが自立活動の指導の役割であると考えます。「木」にたとえたとその基盤は、全体を支える「根っこ」の部分です。このキャラクター誕生には「木を支えられるしっかりとした『根っこ』を育てられるよう、『自立活動の指導』を頑張りましょう」というメッセージがこめられています。自立活動の指導によって、子供たち一人一人が障害による困難さを改善・克服し、一人一人が今もっている力を伸ばし、力強く成長していくことを願っています。

○色とりどりの6つの木の実が自立活動の6区分を表しています。

V 研究のまとめと課題

まとめ

○自立活動を「教科等の下支えとなるもの」として捉え、教科等における困難さの実態把握から評価に至るまでの一連のプロセスを分かりやすく示した「すんなり自立活動」や8人の研究協力員が作成した指導のプロセスを踏まえた「学習指導案」と困難さに対応した「手立て」を示した「実践事例集」の2つの資料を作成することができた。

○「今、なぜこのような目標で指導しているのか」という明確な根拠を説明できるようにすることは大切なことである。これらの2つの資料を活用することで、指導の根拠を明確にし、自信をもって自立活動の指導に取り組んでいただけることを期待したい。

今後の課題

○より多くの特別支援教育に携わる担当者に「すんなり自立活動」と「自立活動実践事例集」を活用してもらい、自立活動に関する理解を深め、指導力を高めてもらうこと。

○本教育研修センターで実施している「新任特別支援学級・通級指導教室担当者研修講座」及び次年度実施予定の「自立活動指導力向上研修講座」において、「すんなり自立活動」を活用してもらうこと。

1 研究助言者	国立大学法人筑波大学 教授 安藤 隆男				
2 研究協力員	小美玉市立堅倉小学校 教諭 中山 恵	鹿嶋市立三笠小学校 教諭 齋藤 真由美	筑西市立養蚕小学校 教諭 江連 紀子	常総市立石下小学校 教諭 根本 里美	
	水戸市立内原中学校 教諭 小泉 俊子	大洗町立第一中学校 教諭 兼巻 照美	県立北茨城特別支援学校 教諭 石川 蘭子	県立境特別支援学校 教諭 山口 瞳	
3 県教育研修センター	所長 安藤 昌俊				
	特別支援教育課長 藤森 幸子	大川 行彦 [平成29年度]			
	特別支援教育課指導主事 平田 勝	本城知子	大木 勉 [平成29年度]		
		熊澤 つむぎ	安藤 尚徳 [平成29年度]		

茨城県教育研修センター 特別支援教育課
平成29年度～平成30年度 特別支援教育に関する研究
児童生徒の障害等に応じた自立活動の指導のあり方

I 主題設定の理由

1 小・中学校の特別支援教育担当教員の思い

回答	割合
ある	80%
ない	3%
無回答	17%

○小・中学校の特別支援教育担当教員の80%が自立活動を行う上で、**難しさや不安**を感じている

・指導内容への不安（指導の手がかりがない）
・個別指導の時間がとれない
・指導内容が教科の補充のみになりがち
・般化が難しい
・本人・保護者の必要感がない
等

2 小・中学校における自立活動の指導の現状から

「特別支援教育に係る学校訪問指導」で行われた自立活動の学習指導案を集め、次の観点で分析した。

観点	「あてはまる」と判断した学習指導案の割合
ねらい	50%
実態把握	39%
指導形態	5%
指導内容	36%

表1 学習指導案の分析結果(学習指導案22編)

小・中学校においては、自立活動の意義や指導の基本を踏まえた指導が難しい場合があることが分かった。その背景には、特別支援学校学習指導要領の自立活動に関する内容をそのまま小・中学校の指導に適用することへの難しさがあることがうかがえる。

3 国及び県の動向から

＜国の動向＞	特別支援学級	通級による指導
イ 特別支援学級において実施する特別的教育課程については、次の通り編成するものとする。(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。		ウ 障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別的教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。

平成29年改訂の小・中学校学習指導要領総則において、特別支援学級においては自立活動を、通級による指導においては自立活動に相当する指導を取り入れることが明示された。

＜茨城県の動向＞

○いばらき教育プラン基本計画の主な施策・取組の中に、「自立活動に関する指導力向上」を位置付ける。
○自立活動の指導に関する教員の専門性向上を図るため、専門家と連携した「小・中学校等自立活動指導力向上研修会」を実施する。(平成28年度～継続)
○学校教育指導方針に、「自立活動の時間における指導又は自立活動との関連を図った各教科等の指導の充実」を明記する。(平成29年度～継続)

5

6

1

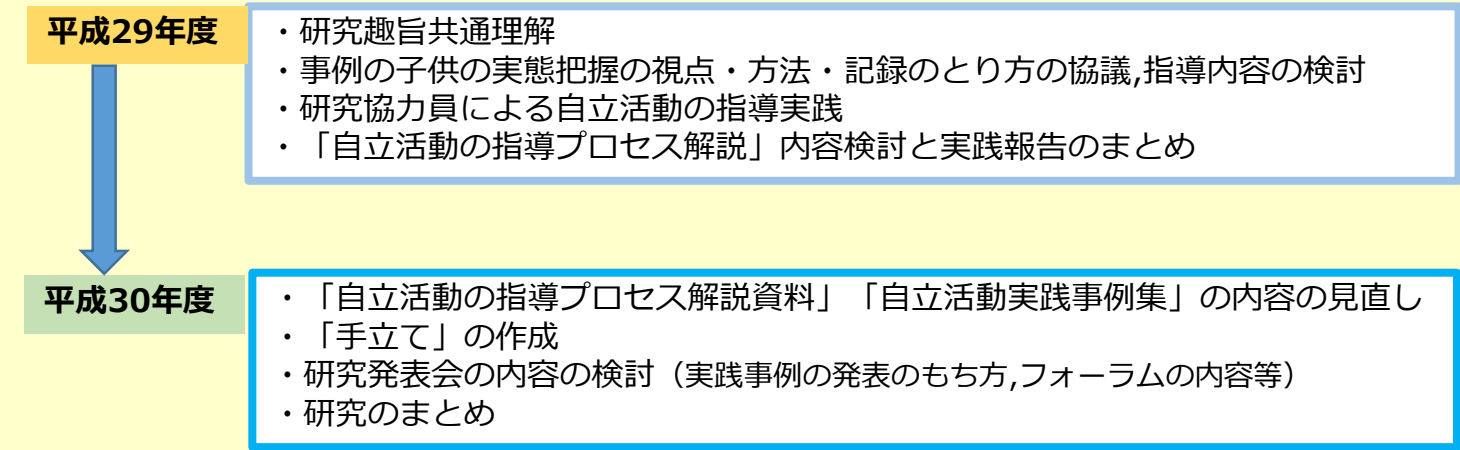
Ⅱ 研究の目的

小・中学校の教員の自立活動の指導力向上に寄与するため、小・中学校の教員が感じている自立活動の指導に対する難しさや不安感を軽減することのできる、小・中学校の実情を踏まえた自立活動の指導に関する参考資料を作成する。

Ⅲ 研究の方法

本研究は、平成29年4月から平成31年3月を研究期間として行う。
本研究では、8回の研究協議会と、それと並行して行われた研究協力員による小・中学校での指導実践を通して「小・中学校の先生のための自立活動の指導プロセス解説『すんなり自立活動』」「自立活動実践事例集」の2種類の参考資料を作成した。

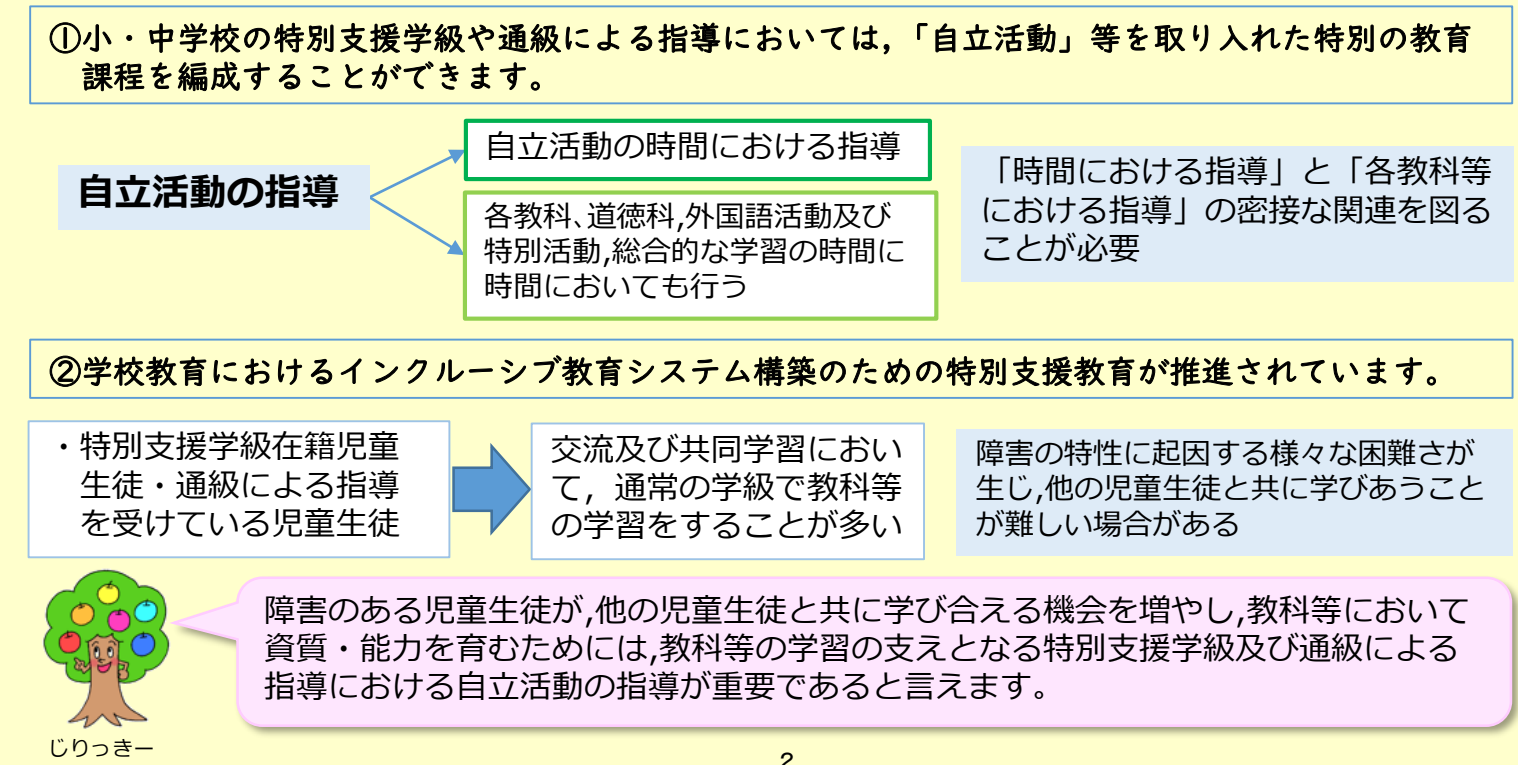
＜2年間の研究計画＞



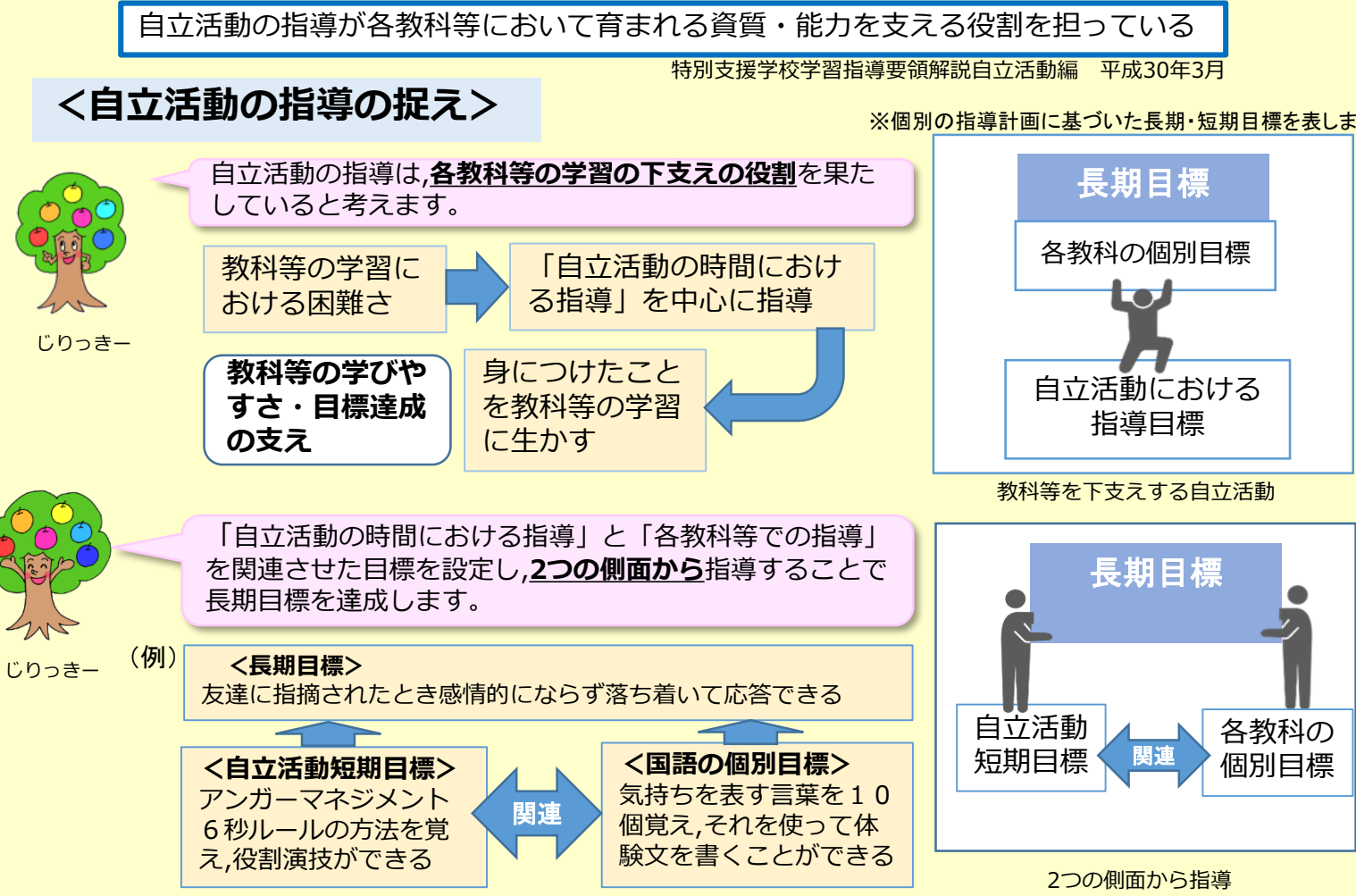
Ⅳ 研究の内容

1 小・中学校における自立活動の指導とは

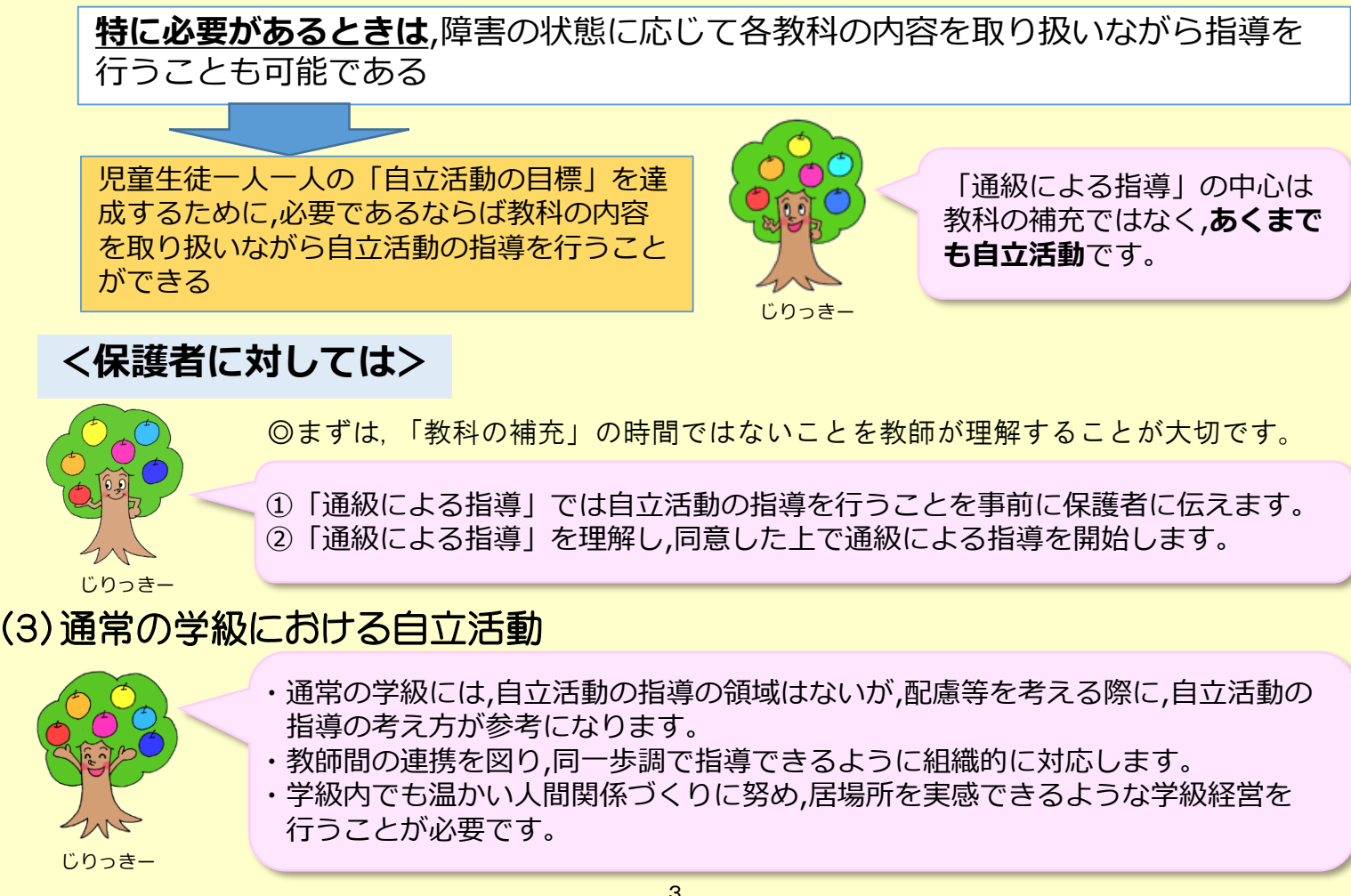
(1) 特別支援学級・通級による指導における自立活動の重要性



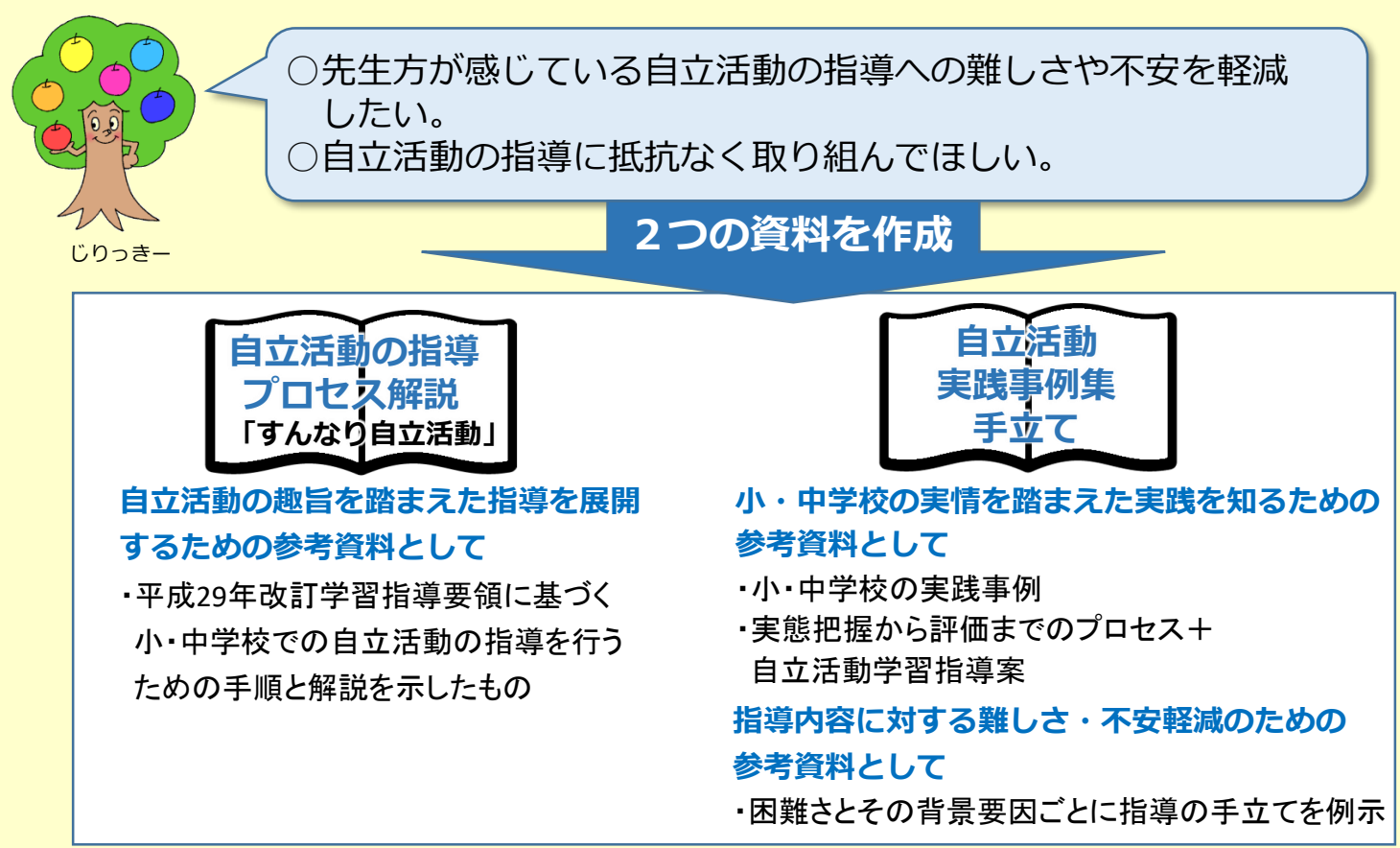
(2) 各教科等との関連



＜通級による指導の場合＞



2 自立活動の参考資料について



(1) 小・中学校の先生のための自立活動の指導プロセス解説「すんなり自立活動」

